

ナタ シャ M.ケリ (元キリスト教徒 アメリカ合 国) (パ ト2/2)

:

明:

文献を み、 々なムスリムの少女たちと信仰について した 、ナタ シャは15 でイスラ ムを受け入れる
。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ナタ シャM.ケリ

日 6 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

私の人生において、持っていた小さな信仰を にしてしまうような事件が起きました。
私の探求は 焉を迎えました。私はもはや自分自身、 、または教会を研究しませんでした。
私はしばらくの 、 めていました。ある日、友人がある一 の本をくれるまで、私は
とても辛らつな人 でした。その本は“ムスリム キリスト教徒の ” というものでした。

私はその本を手に取り、 みました。 ずかしいことですが、私は自分の探求の 、一度も
他の宗教を考 じませんでした。キリスト教が私の知っていた全てでしたし、それを て
ようとは思いませんでした。私のイスラ ムに する知 は、大 少ないものでした。 、それ
は主に勘 いと固定 念で占められていました。その本は私を かせました。 に、神がいる
と信じているのが自分だけではないことを知りました。私はもっと多くの本を みまし
た。私はそれらと共に、いくつかのパンフレットも受け取りました。

私はイスラ ムについて、知的 面から学びました。私にはムスリムである 友がいて、し
ばしば彼女にその 践について しました。私がイスラ ムを自分の信仰として考えたこと
は一度もありませんでした。イスラ ムに する多くのことが、私には でした。

数ヶ月の の、ラマダ ン月が始まりました。 金曜日、断食とクルア ンの のために、私は地域のムスリムの集まりに参加することが出来ました。私はムスリムの少女たちを で当惑させました。私は、どのようにして人が彼らの信じ、 っていることにそれほどの信をもてるのか、畏敬の念さえ抱きました。私は自分自身が、自分にとっては であるその宗教に引き まれていたのを感じました。

私は い 自分が孤独であると信じてきたので、イスラ ムは私を色々な意味で心地よくしました。イスラ ムは世界への 戒としてもたらされました。それは人々を正しい道へ すためにもたらされたのです。

しかし信仰だけが私にとって大事なことであったのではありません。私は、自分の人生を形づくる 律を求めていたのです。私はただ かが自分の救世主であり、これを通して自分が天国行きのチケットを得ることだけを望んでいたのではありませんでした。私は、どう行 すれば神の承 が得られるのかを知りたかったのです。私は神との 密さを欲していました。私は神を自 したかったのです。そしてとりわけ、天国へのチャンスが欲しかったのです。キリスト教は私にこれを与えてはくれませんでした。イスラ ムはそうではないことを感じ始めていました。

私は更に学び けました。私はイ ドの祝祭（ラマダ ンとハッジの 式に次ぐ祝日）と金曜礼 に行き、友人と共に の勉 会にも出席しました。

宗教を通し、人は心の平 を得ます。それらに する平 。私はこれを3年ほど断 的に感じていました。そしてこれが途切れている には、私はサタンの 惑に してより敏感になりました。1997年の2月初旬、私はイスラ ムが正しく真 であると 付き始めました。しかし私はどんな性急な 定もしたくはなかったので、待つことに めました。

この 、サタンの 惑は しました。私は彼が出てきた2つの を思い出すことが出来ます。サタンは私を呼んでいました。私はこれらの から めた、イスラ ムに慰めを 出しました。私は自分がシャハ ダ（イスラ ムの信仰告白）を り返していることに 付きました。これらの は、私の考えを えかけました。私はそのことを私のムスリムの友人に打ち明けま

した。彼女は、サタンが私を真 から引き そうとしているのかも知れないと言いました。私はそんな には思いもしませんでした。

1997年3月19日、 の授 から った 、私はシャハ ダを自分自身で唱えました。それから3月26日、私はそれを 人の前で唱え、正式にムスリムになりました。

私は、自分の感じた喜びを表すことが出来ません。私の肩からおりた重荷を表 することも出来ません。私はついに平 心を得たのです。

それは私がシャハ ダをしてから5ヶ月ほどたった でした。イスラ ムは、私をよい人 にしました。私は今 くなり、そして物事を理解するようになりました。私の人生は著しく化しました。私は今目的を持っています。私の目的は、私自身が天国での永 の生活にすることを 明することです。私は念 だつた信仰を持っています。宗教はいつも私の一部です。私は 日、よいムスリムになるために しています。

人々は15 の子供がどうやって人生におけるそのように重要な 定をしたのか、しばしばきます。私は、それをこれほど若くして つけることのできた私の精神状 を神が祝福されたことに感 しています。

キリスト教が支配する社会で、よいムスリムとして することは大 です。そしてキリスト教徒の家族と暮らすことは更に しいことです。しかしながら、私は落胆しないようにしています。私は 在の自分の苦境にくよくよしたくはないですし、私のジハ ドは に私を くしていると信じています。ある人はかつて私に、神の 大さと慈悲を し、 し、そして 付いたことは、ムスリムとして生まれたある の人々よりもずっとよいと言いました。こうして私は、地上での70年の生活は天国での永 の暮らしと比べれば、何でもないという 理を得たのです。

私は神の 大さとご慈悲、そして 光を表 する才能に欠けていることを めなければなりません。私の 述が、私と同じように感じ、苦しむ他の人々の役に立てばと思います。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/65>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。